

第3章

持続的な森林整備と林業振興に向けた 施策展開

1 施策展開の方向性

東京の森林は、木材の供給や災害の防止のほか、二酸化炭素の吸収や生物多様性の保全、あるいは環境教育やレクリエーションの場としての活用など、都民生活に貢献する多面的な機能を有した、次世代に引き継ぐべき貴重な財産です。

東京の森林を将来にわたって健全な姿で保全していくためには、適切な森林整備により伐採・利用・植栽・保育という循環を継続するとともに、循環の一翼を担い、中心となって森林を守り続けていく林業の振興が不可欠です。

しかし、東京の森林と林業は、依然として伐採更新の停滞や高コスト構造の改善など多くの課題を抱えており、その解決なくしては、森林という貴重な財産を、健全な姿で次世代に引き継ぐことはできません。

こうした課題の解決には、多くの経費や労力、時間等を要しますが、行政が取り組める範囲には限りがあることから、森林所有者が森林整備に係る責務を果たすとともに、多様な主体が森づくりに参画することが必要です。

こうした点を踏まえ、都は、より効果的かつ効率的に課題を解決するため、今後の森林整備と林業振興において、2つの基本的視点と4つの戦略に基づいた施策を展開していきます。

基本的視点 1 効率的な森林整備と安定的な木材供給

基本的視点 2 民間が有する力の幅広い活用

戦略 1 多様で包括的な森林整備の推進

戦略 2 効率的な林業経営の実現

戦略 3 東京の木「多摩産材」の利用拡大

戦略 4 都民や企業等との協働による森づくりの促進

貴重な財産である東京の森林を健全な姿で次世代に継承

2 基本的視点

基本的視点 1 効率的な森林整備と安定的な木材供給

東京の人工林は、木材として利用可能な50年生以上の森林が増えていますが、立地条件も様々で搬出が困難な箇所も多く、人工林のすべてを、木材供給を主とする経済的な林業の対象として整備することは現実的ではありません。

限られた経費等を有効に活用し、より大きな成果を得るためには、費用対効果の高い地域での重点的な基盤整備や、森林施業の集約化など、市場競争にかなう効率化とコスト削減を追求する必要があります。

そこで、搬出の条件が良く、採算性のある木材生産が見込める森林では、積極的な伐採更新と木材搬出により、森林の循環の推進と資源の有効利用を図る一方で、奥山等の条件が不利な地域では、費用対効果を踏まえ、公益的機能の発揮に必要な森林整備を実施し、将来的には自然の遷移により維持・更新が図られるよう誘導していくことが必要です。

そのため、林道からの距離や標高、地形等の立地条件のほか、森林経営計画の策定状況に基づいて、人工林を生産性優先の森林と公益性優先の森林に明確に区分し、その区分に適した施業や集中的な基盤整備の実施によりコスト削減を図り、効率的な森林整備と安定的な木材供給を目指します。

基本的視点 2 民間が有する力の幅広い活用

高コスト構造や木材価格の長期低迷など、林業を取り巻く環境は依然として厳しい状況にありますが、多額の公的資金を投入し続けることは次世代に大きな負債を残すことになりかねず、行政が対応できることには限界があります。

一方で、都民や企業等は、森づくりへの参画についてのニーズも高いことから、より主体的に森づくりに関わっていくことが期待されます。

森林を健全な姿で次世代に引き継ぐためには、第一義的に森林所有者が森林の整備や保全を図るといった責務を果たすことが必要です。加えて、林業事業者、都民、企業、行政等の多様な主体が有機的に連携しながら、森林整備や林業振興、木材利用に対して、それぞれの役割を果たすことが求められることから、森づくりの様々な場面において、民間が有する力を幅広く活用していきます。

3 各戦略の重点的取組

2つの基本的視点を踏まえ、今後の施策展開に当たり、4つの戦略のもとで、以下の取組を重点的に実施していきます。

戦略1 多様で包括的な森林整備の推進

○ 森林区分の明確化

- ・ 林道からの距離や標高などの立地条件のほか、森林経営計画の策定状況に基づいて森林区分を明確にし、区分に適した森林整備を着実に実施していきます。

○ 森林の循環の推進

- ・ 森林の持続的な循環を目指して、公的関与による伐採更新の推進に加え、徐々に民間主体による森林整備が進むよう施策を展開します。

戦略2 効率的な林業経営の実現

○ 林業のコスト削減の推進

- ・ 林道等の路網整備の促進や、東京の森林に適した作業システムの確立により、コスト削減を図ります。

○ 林業労働力の確保と技術者の育成

- ・ 伐採搬出や森林作業道作設などを担う技術者を育成します。

戦略3 東京の木「多摩産材」の利用拡大

○ 公共利用及び民間需要の拡大

- ・ 公共建築物等における利用を拡大するとともに、住宅利用に加えて、木の特性を活かした木材利用の多様化を進め、民間需要を拡大します。

○ 次代を担う子供たちを中心とした木育活動の推進

- ・ 森林・林業の役割や木材の利用意義等について、木に触れ、木を知る木育を通じて、子供たちを中心として都民に幅広くPRします。

戦略4 都民や企業等との協働による森づくりの促進

○ 都民や企業等の要望に応えた仕組みの構築と多様化

- ・ 都民や企業等が、幅広く森林整備や木材利用に関われるよう機会の創出や仕組みづくりを進め、森づくりへの参画を促します。